



年頭のごあいさつ

(一社)品川労働基準協会
会長 佐野 角夫



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様ならびに関係各位におかれましては、新しい年をお健やかにお迎えになられたことと存じます。

昨年度は、中国武漢で発生した新型コロナウイルスの世界的感染拡大により、経済情勢や社会環境が激変し、当協会の事業は甚大な影響を受けました。コロナ感染リスク回避のために、会員懇親会から各種講習会・研修会・本年の新年講演会・賀詞交歓会に至るまで、重要活動を中止せざるを得なくなり、財政状況は極めて厳しくなってきました。このため、会員増加や講習会などのウェブ化により、収益増大に努めると共に、あらゆるコストの見直しや書類配布のメール配信への切り替えなど、更に効率的な事業運営を推進し、財政基盤の悪化を避けるよう全力で取り組んでおります。

品川労働基準監督署 尾城署長をはじめ職員の皆様の絶大なご支援と、役員ならびに会員各位の多大なるご協力を切にお願い申し上げます。

昨年の国際経済は、コロナ感染の世界への拡散によりまたたく間に悪化して、第2四半期の各国GDPは、第二次世界大戦以来最大のマイナス成長を記録しました。この間各国は、まれに見る早さと規模で、財政・金融政策を中心にあらゆる政策を総動員し、実行してきました。これにより年後半からは、主要国の製造業景気指数などの景況感は改善しつつあり、世界経済は回復へ向かうと予想しています。日本経済も中国・米国向け輸出の回復を主因に、外需主導により景気の復調が進むものと思われます。

このような中であって、世界各国の株価は、大規模な金融緩和を背景に上昇を続け、米国ダウ平均株価は、コロナワクチンの実用化への期待も高まり史上最高を更新し、日経平均株価も29年ぶりの高値を記録しました。因みに、この間の米国ダウ平均株価は10倍の上昇です。

しかしながら、コロナ感染が再度急速に拡大して、世界の感染者数は6,000万人を超え(2020年11月末時点)、都市封鎖や行動制限に踏み切る国が相次ぎ、経済・社会への打撃は大きく、日本でも感染者数は急増し、先行きは楽観を許されない事態となりました。

労働基準行政においては、昨年4月から中小企業にも時間外労働の上限規制が適用になり、6月からは大企業に対してパワーハラスメントの措置義務が適用になりました。また、9月には副業・兼業の促進に関するガイドラインが改定され、多様な働き方への期待が高まっております。当協会は、引き続き品川労働基準監督署と連携し、働き方改革関連法をはじめとする労務管理・安全衛生・労災保険に係る各種講習会を開催し、労働者の健康・安全確保及び被災労働者の迅速な救済のため、会員の皆様と協力して取り組んでまいります。

最後に、コロナ禍でベストセラーとなった、ノーベル賞作家カミュの「ペスト」の一節をご紹介します。

「あなたがたは禍のなかにいます。当然の報いなのです。反省すべき時がきたのであります。心正しき者は恐れることはありません。ペストと戦う唯一の方法は、誠実さということです。」

皆様のご健勝と事業のご発展、そしてコロナの収束を心から祈念しまして、年頭のご挨拶と致します。